

ましきまちづくりスクール #03

地域を訪ね、人に出会う。魅力を確かめる店舗ツーリズム

富澤 堅仁氏 / 小谷



福馬 盛寛氏 / 砥川



杉光 直子氏 / 広崎



地域と生業

益城のブランド力
店舗ツーリズム
定数×係数×a

12/11 水

13:00 ~ 17:00

主催：益城町地域おこし協力隊
：益城町にぎわいづくりWG

Program

13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

スタディ
ツアー @Greentea.Lab

スタディ
ツアー @福馬果樹園

スタディ @ミモザ 意見交換



意見交換の場 @ ミモザ

お茶の富澤。4代目

富澤 堅仁氏 / 小谷

益城町で栽培・製茶・販売を行なう「お茶の富澤。」の4代目。震災後は地域に残る唯一の茶園となったが、意欲的な茶葉づくりで全国に熊本のお茶の魅力を発信している。人と人、食事とその空間、たくさんの何かを繋ぐ存在としてお茶を考え、お茶屋「Greentea.Lab」も運営する。

有限会社福馬果樹園 代表取締役

福馬 盛寛氏 / 砥川

益城町を代表する特産品の一つである「太秋柿」を生産・販売。農業法人として「シンデレラ太秋」などの自社ブランドを生産するかたわら、「益城町のためにできることは何だろう」と考え、町のにぎわいづくりのきっかけとなる民間発の取り組みも実施している。

ミモザ店主

杉光 直子氏 / 広崎

熊本地震の影響で、家族が経営していた板金・塗装業は引退することに。生まれ育った場所で「なにかできないか？」と考え、姉の夢であったカフェを姉妹で立ち上げる。パリスタの姉、パン屋や飲食店で働いていた妹の経験を活かし、それぞれの技術を以て「ミモザ」を営んでいる。

スタディツアー @Greentea.Lab

昭和4年、町で産業をつくりたい！という気持ちで創業したのが『お茶の富澤。』と語る4代目 富澤さん。平成11年にお茶産業のピークを迎えている状況を受け、若い世代にもお茶を親しんでもらえるようなお店づくりを開始しました。

人通りが多い立地に店舗を構えるのが主流のなか、いち早くコンテンツづくりに目を向け、商品開発の拠点となる Greentea.Lab を開業。開発や研究を繰り返した結果、今では年間6万人近くが足を運ぶお店づくりにつながっていると、教えていただきました。

お店づくりの話に加えて「町は定数、係数は自分次第」と、暮らしとしての環境づくりへの姿勢についても話題を広げてもらい、益城町への想いも共有いただきました！

スタディツアー @ 福馬果樹園

「柿の品種開発を実施する試験場で淘汰（捨てられる）される予定だった1つを試食し、その食感に先代が驚き、商品化まで努力を重ねた。」と、自社ブランドである太秋柿のルーツを紹介する福馬さん。

福馬果樹園で生産する柿は、99%が店舗販売。自社のブランドである柿の価値を落とさない工夫として、約25年を掛けて販売スタイルを定着させた経緯があることを教えていただきました。ブランドの価値を下げない工夫に加えて、「人



@Greentea.Lab



スクール参加者で集合写真

この笑顔が会の雰囲気を物語る

を笑顔にするのが根本、肌で感じて、反応を見て、柿産業を営んでいる」など、その想いについても丁寧にご説明いただいたのも印象的でした。

当日は即興スタイルで板書実演も実施いただき、『ブランド力＝話題性×希少性×付加価値』の方程式に福馬果樹園を置き換えた説明によって、示唆的な視点に触れることもできました！

スタディツアー @ ミモザ

「私、益城が好きではないんです（笑）」と明るくも辛口な内容から話しを展開する杉光さん。一方で、カフェを訪れるお客さんからは「益城は良いところだね」とお話を伺い、生まれ育った地域への愛着について考えることも少なくはないそうです。

店名『ミモザ』は、自身の花好きと、ミモザの日(3/8)が由来していると話いただきました。ミ



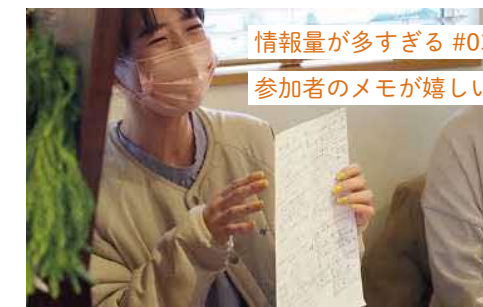
@ 福馬果樹園

モザの日のコンセプトを大切に、地域のなかで一人でも過ごせるお店づくりを姉妹で実現しています。現在では、カフェだけでなく、『夜ヨガ』『モッタイナイモッタイナイ(蚤の市)』『夜の会』など多様な利用を促している実態について紹介いただきました。

「子どもたちには故郷を誇りに感じてほしい」と杉光さんの想いを確認し、益城を好きになるライフスタイルを教わりました！

#03 ふりかえり

ミモザで講師3名を含めてふり返りを実施！贅沢な時間を過ごすことができました。お礼申し上げます！



情報量が多すぎる #03
参加者のメモが嬉しい



@ ミモザ